

科目名	現代中国文化論特講	担当者	ゴ 川 吳 川	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ことばは、常に社会の文化などの影響を受けながらその社会の現状を反映し、その社会と共に生き、共に変化していくものである。本特講では、日本との比較対照を視野に入れながら、中国のことばの特徴を考え、中国のことばと文化の関わりを新語・流行語を含む様々な角度から考察していく。</p> <p>本特講を受講することによって、少しでも中国のことばと文化に対する理解や研究を深めることができれば幸いである。</p>		
到達目標	<p>文化的意味を持つ俗語・慣用語・ことわざ、時代とともに変わる新語・流行語について考察し、中国のことばと文化に対する理解を深める。</p>		
学修方法	<p>まず書店・図書館などで基本教材を入手し、関連文献を参考にしながら学習する。疑問などが生じた場合、電子メールなどで指導を受ける。ほかに、ゼミなどのグループ研究も利用できる。在宅学習による研究成果をレポートにまとめ、レポート提出システムで提出する。</p>		
スケジュール	<p>前期と後期にそれぞれ2つの課題が課せられている。前期は9月中旬までに2つのレポート、後期は1月の課題提出締切日までに2つのレポートを提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題レポートを重視する。
	平常評価	20 %	スクーリング授業やゼミの出席も評価の対象になる
履修者への要望	<p>できれば中国語で書かれた参考書も合わせて利用されるとよい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 上野恵司 教材名： 『ことばの周辺 ― 中国語 72 話（新版）』（白帝社，2007 年） ISBN:978-4-89-174873-9 1,600 円+税 本書はことばと文化のエッセーであるが、ことばの周辺に広がる異文化の世界が見えてくる。
参考図書	上野恵司『ことばの文化背景―中国語 51 話』（白帝社，1997 年） ISBN:978-4-89-174323-9 1,600 円+税 朱大可ほか チャイニーズカルチャーレビュー―中国文化総覧 (Vol. 1～Vol. 7) (好文出版，2006 年-2010 年) 各 2,800 円+税 王希傑 (加藤阿幸・許山秀樹訳) 『これが漢語だ 王希傑言語文化随筆集』 (白帝社，2007 年) ISBN:978-4-89-174615-5 2,200 円+税
履修上のポイント	基本教材をもとより、できれば、中国語で書かれた研究書も熟読してほしい。そして、中国語という言葉を通して、中国の文化・社会との関わりを考察し、中国文化の特徴を理解・把握してほしい。
レポート課題 1	中国の言葉と文化・社会の関係について分析し、論じなさい。 <b>留意点</b> ：中国の言葉にみる文化的・社会的事象を取り上げ、分析・考察する。
レポート課題 2	日中共通の語彙にみる文化的な相違について考察し、論じなさい。 <b>留意点</b> ：日中同形異義語や同じ漢字を用いながら、意味や用法の異なる言葉に焦点を当て、その文化的背景や発想の違いに注目してほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中文礎雄 教材名： 『中国のことばと文化・社会』（時潮社，2006 年） ISBN:978-4-78-880607-8 3,500 円+税 中国のことばと中国の文化・社会との関わりを考察する研究書である。新語・流行語、ざれ歌から社会の激変ぶりを知ることができる。
参考図書	宇野和夫・呉川『中日辞典 新語・情報篇』（小学館，2008 年） ISBN:978-4-09-515603-3 3,800 円+税 相原茂『笑う中国人 毒入り中国ジョーク集』（文芸春秋，2008 年） ISBN:978-4-16-660616-0 740 円+税
履修上のポイント	ことばは時代とともに変わるものである。目まぐるしく激動している現代中国においても多くの分野から新語や流行語がどんどん生み出されてくる。常に最新の動向に注目し、できるだけ新しいデータを収集したうえで分析を行ったほうがよい。
レポート課題 1	新語の出現とその文化的・社会的意義について論じなさい。 <b>留意点</b> ：新語や流行語を分野別に整理しながら、新語形成のプロセスについて考察することが望ましい。
レポート課題 2	中国のことばと文化の、日本との相違点について論じなさい。 <b>留意点</b> ：色彩語のイメージ、動物のイメージ、食文化に関わる表現、身体に関連する表現、タブーの表現、人名・地名の文化的意味、宗教に関わる表現など、さまざまな内容から一つ絞って、副題をつけて論じたほうがよい。